

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101437		
法人名	社会福祉法人 致遠会		
事業所名	グループホームサンハイツ女の都		
所在地	長崎市女の都3丁目1番6号		
自己評価作成日	令和 5年 10月 3日	評価結果市町村受理日	令和6年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 5年 12月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき、ご入居者様に安全安心、そして、健康で、笑顔がたくさんあふれる生活の日々を提供できるように、職員が健全で、笑顔でご入居者様に接することができるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年2月、サテライト型事業所から単独運営に移行し再始動している。理念「ゆたかに、安らかに、自分らしい生活」に沿い、入居者同士が当番制で食事の片付けや掃除等の役割を持つなど、人生で培ったスキルを継続できるよう努めている。日頃から管理者は「自分の親だったら」と立ち返るなど、尊厳やプライバシーを守る視点を持ち、職員を指導している。コロナ5類移行後は「盆踊りを踊りたい」という入居者のために地区の夏祭りへの参加を支援している。リビングでは入居者が集い職員と談笑したり、テラスに出て季節ごとにプランター栽培を行ったり、入居者もできる範囲で掃除を手伝ったりするなど家庭的であるとともに、入居者同士で「がんばって食べて」と声を掛けあうなど、ほのぼのとした雰囲気がある。職員がやさしい眼差しで入居者を見守り支援するホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆたかに 安らかに 自分らしい生活」の提供ができるように、ご入居者様の人権と尊厳を守りケアの実践を行っている。	理念“ゆたかに、安らかに、自分らしい生活”に沿い、入居者同士が当番制で食事の片付けや掃除等の役割を持つなど、その人らしい生活を継続できるよう努めている。管理者は人権を大切に、職員の気になる点は指導しながら支援している。法人冊子“愛のフィロソフィ”を項目ごとに取り上げるなど理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流できていませんが、コロナ5類を受け、今年の夏祭りにご入居者様と参加しました。	自治会に加入しており回覧板が届いている。コロナ5類移行後に、コロナクラスターが入居者、職員共に発生したこともあり、外部との接触は控えている状況である。「盆踊りを踊りたい」という入居者には、地区の夏祭りへの参加を支援している。今後は、状況を見ながら地域交流を再開していく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	左記のような活動ができるよう、努めていきたいと思っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	未だ対応できていません	運営推進会議は今年度も開催できていない。会議内容等検討し、会議に必要な書類作成に向けて準備は行っているものの、開催に向けた取組はこれからである。今年度3月までには1回目を開催し、次年度に繋げていく方針である。	年6回の会議開催に向けて、今年度3月まで確実に1回目を実施し、次年度に繋げていくことが待たれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要な時は、報告、連絡、相談を行うようにしている	今年2月からサテライト型事業所から単独運営に移行し、再始動している。管理者配置により連携を図り、日頃から運営における手続きや不明な点を問い合わせるなど、協力関係を築いている。オンラインによる業務継続計画策定のための研修案内等があり、職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる(現に身体拘束している方はいません)	指針を整備し、身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催している。日頃から管理者は「自分の親だったら」と立ち返るなど、尊厳やプライバシーを守る視点を持ち職員を指導しており、言葉による拘束については、その都度検討しチェックリスト等を用いて理解を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努めています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の件は、周知できている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	左記の通り説明を行い、ご理解とご納得を頂き締結しております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望については、真摯に対応させていただいている また、ご要望がないか聴き取りも行っている	家族からの苦情相談窓口や処理手順は、明文化し契約時に説明している。面会時には声掛けし、家族の要望を聞き取っている。また、毎月発行するホーム便りは、面会方法の変更やそれぞれの入居者の様子を伝え、家族に喜ばれている。コロナ禍では家族の要望でメールやLINEを活用した面会の対応がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は、否定することなく一緒に考え対応できるようにしている	職員は、毎月の職員会議や日常業務の中で、提案や要望を伝えている。管理者は、意見回収袋を作り、全ての職員の意見の抽出を試みている。また、気になる職員には時間を取って話を聞いている。福祉用具やトイレ前のカーテン設置など職員意見の反映は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	整備等に努めておられると思います		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勧められておられると思います		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組んでおられるとおもいます		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	行っている 居室担当を決め、要望の拾い上げに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	行っている 十分な聴き取りとは言えないが、担当職員や計画作成担当者を中心に聴き取りを行っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	左記の通り対応している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通信でご様子をお知らせするように取り組んでいる LINE電話の活用もおこなっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ5類を受け、親しいご友人の面会などうけ入れしている	職員はアセスメントや日々の会話から、入居者の生活歴を拾い上げ把握している。コロナ5類後、面会は増え、家族の他に友人や知人、貸家の店子などが訪れている。職員は自宅近辺のドライブに出掛け、また、新聞を読んだり読書したり、在宅時の習慣継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	左記の通り実践できている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援に努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中から意向を引き出すことができるように取り組んでいる	職員は入居者と1対1の時間をもち、意向を聞き取っている。難聴者は耳元で話し、発語困難者には顔つきや表情、動きでサインを見逃さないように努めている。聞き取った思いは記録し職員で共有している。入居者の意向に沿って可能な限り対応したいとパン食やおにぎりの希望に応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話で、キーワードを投げかけ、拾い上げができるように工夫している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実践している 申し送りなどで、変化があれば情報共有するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要時にご家族へ電話をし確認することに留まっている	利用開始から暫定プランを立て、1ヶ月で見直し本プランに移行している。計画更新時ごとに電話や面会時に家族の意向を確認し、同意を得ている。毎月のミーティングでは各入居者の担当職員が主となり検討し、その後計画作成者が集約している。ただし、介護ソフトでの介護計画と実施記録の連動が活かされていない。	介護計画の意義とは、入居者の思いや意向を反映した自立した生活の支援にある。再度、職員間で意義に立ち返り介護計画と実施記録の連動に向けて更なる工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	見直しにつながる資料として、記録はしっかりととっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様化できるように、私たち自身も柔軟性を 持てるようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今のところ地域とかかわることができていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	対応している	基本的には協力医への変更を依頼し、月2回往診を受けるとともに、週1回法人の訪問看護師が健康状態を確認している。入居前のかかりつけ医の継続も可能であり、家族同行で通院しており、在宅時から継続している訪問ヘルパーに依頼して通院する事例もある。夜間緊急時等も主治医と連携し支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	左記の通り対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる	看取り支援体制を整えており、今年看取り支援を行っている。入居時に重度化した場合の指針を家族に説明し、同意を得ている。重度化した際は本人の状態に合わせ、その都度医師を交えた意向の再聴取や説明を行うこととしている。年間研修計画にはターミナルケアを予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全てへの周知徹底はできていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	BCP作成完了	今年8月消防署立会いの総合避難訓練は諸事情により中止となっている。毎月の自主訓練では、日中夜間の手順確認やコンセント点検、消火器の位置把握、地震発生時の対応確認等を実施し、職員間で必要な知識を共有している。ただし、確認作業に留まっており、実際の避難訓練は実施していない。	実際に避難訓練を行い、問題点の抽出、全職員に周知徹底を図ることは重要である。毎月の訓練の中で、入居者と職員が共に行う火災・自然災害時の避難訓練の実施が待たれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき取り組んでいる	理念に尊重と尊厳を掲げており、管理者は職員を指導し、周知を図っている。入居者には苗字にさん付けで呼び掛け、排泄や入浴介助時は羞恥心に配慮し、尊厳を傷つけない支援を心掛けている。個人情報の取り扱いには写真掲載を含め、同意の署名を得ている。職員は守秘義務の誓約書を提出し理解し、個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような働きかけに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用様が、日々満足して頂けるような支援に努めたい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事提供時には盛り付けや使用する器などに気を付け対応。最近では、食器洗いやテーブル拭きなどご入居様が手伝ってくれます	主食はホームで焼き、主菜は配食業者に委託して、本人が食べやすい嚥下状態に合わせて提供している。入居者は食器洗いや台ふきなど、出来るところを手伝っている。年越しそばやおせち料理、クリスマスケーキなど行事食は入居者に好評である。家族と外食に出掛ける入居者もあり、食事を楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランスは、常に意識している 水分量については、目標を定め、飲水して頂いている 水分摂取が厳しい方などは、好みの物をゼリーにして対応		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実践している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実践している	ホームでは夜間もポータブルトイレの使用は無く、日中はトイレでの坐位排泄を基本としている。職員は、入居者が不快にならないように支援方法を検討している。また、無駄な使用がないように本人の状態に合った適切なパッド類の検討を行うなど、自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	実践している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	理想ではあるが、事業所都合となっている。しかし、体調不良や気分が入浴D咳ない時は別の日に対応できるようにしている	入浴は週2回を基本とし、体調や気分に応じて時間や日を変えて対応している。車椅子の入居者も浴槽へ浸っており、同性介助は希望があれば対応している。入浴剤や本人の好みのシャンプー類の持ち込みがあるなど、職員は入浴を楽しむ支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	左記の通り実践		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	実践できている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	左記のような対応ができるよう、取り組み中である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	テラスの活用に取り組んでいる	桜の花見に近くの公園までの散歩に出掛けている。また、テラスでの外気浴、日光浴は頻繁に行い、入居者の気分転換を図っている。ヘルパー同行で買い物へ出掛けたり、家族の協力を得て、一緒に温泉旅行や食事に外出している。職員不足が解消した時には、積極的に外出支援に取り組む予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	対応しておりません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	対応できておりません		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	左記のように取り組みたいと努力しているところ	リビングは入居者が集い寛いでおり、キッチンでの調理の様子が分かる他、テラスに出て季節ごとにプランター栽培も行うなど、家庭的な雰囲気がある。卓上用当番札があり、家事仕事を好む入居者が交代で食器洗いや食後の片付けなど行っている。清掃は職員が毎日行い、入居者もできる範囲で手伝っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が狭く、場所の提供に苦慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	左記のように心がけている	持ち込みは自由で、衣装ケースや加湿器、位牌など配慮している。全室眠りスキャンを備え、安全で快適に過ごせるよう支援している。居室入口には職員と本人と一緒に作ったクリスマスリースを飾り、季節ごとの装飾も支援している。居室は2棟に分かれ、奥の棟では車椅子の入居者が使用できるよう階段に昇降機を設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	左記の通り。実施中		